

# 文化庁月報

No.382  
2000年7月号

## CONTENTS

17	15	13	12	11	10	9	8	6	4
日韓国際共同研究	〔事例紹介〕 中国芸術家招聘研修	〔解説〕 文化庁の日中、日韓との文化交流・ 協力に関する施策	ふれあいの日本語教育をめざして	文化財保護と文化交流	〔日韓文化交流〕 オペラ活動における芸術文化交流	日本語教育の視点から	〔日中文化交流〕 文化財保護と日中文化交流	未来志向の日韓文化交流を求めて	〔論文〕 中日文化交流の推進を
青木繁夫・姜 大一	太刀川瑠璃子	李 徳奉	竹田 旦	池田 温	岡田 康博	徐 一平	劉 徳有	饗庭 孝典	

## 特集／国際文化交流の推進

### —中国および韓国との交流

〔論文〕

中日文化交流の推進を

劉  
徳有

饗庭  
孝典

## ACA NEWS

○第24回高等学校総合文化祭静岡大会、開幕せまる	.....32
○平成12年度舞台芸術ふれあい教室公演日程決まる	.....33
○文化財の新指定(美術工芸品関係-1)	.....35
○重要文化財(建造物)通潤橋 ——文化財の保存と活用に向けて	.....40

## イベント案内

○京都国立博物館「坂本龍馬と幕末の争乱」/42	
○国立国際美術館「ミロスワフ・バウカ」「東島毅」/43	
○東京国立近代美術館工芸館「かたちのちから」/44	

新国立劇場 スポットライト/45	
8月の国立劇場/46	
芸術文化振興基金ニュース/47	
表紙解説/編集後記/48	

## 連載

● Cross Road 花柳千代さん(日本舞踊家) / 19	
● これからアートマネジメント⑯ 消費から創造へ——ワークショップの深化① / 22	
● らしんばん セゾン現代美術館 / 24	
● まちづくり最前線⑤ 上中町熊川宿伝統的建造物群保存地区 / 25	
● 地域発 島根県出雲市・神戸川太鼓 / 28	
● まとばの万華鏡⑩ 人間を使う? ものを使う? / 30	
● MEDIA ARTS GALLERY④ 「アート ホーム」/ 31	
● 水谷 修	

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、ご質問、文化庁月報の感想などを、  
ホームページのご意見欄や文化庁のウェブマスター宛へお寄せください。  
(ホームページアドレス) <http://www.bunka.go.jp/>  
(ウェブマスターメールアドレス) [webmaster@bunka.go.jp](mailto:webmaster@bunka.go.jp)

# 国際文化交流の推進

中国および韓国との交流

いつて良好で健全な状態にあり、中国の对外文化交流の中で一位を占めている。

一衣帶水の両国が歴史上二〇〇〇年の長きにわたる交流を続けてきたこともさることながら、両国の人々の強い願望をバックに国交正常化後における両国政府の重視と推進に負うところが大きいことは言うまでもない。

中日両国は、社会体制も文化的背景も違い、人々の考え方、心理状態、価値観にも差があることは周知のとおりである。だからこそ、今まで以上に心の通い合った文化交流や学術交流を発展させ、相互理解を深めて本当に自他を知るようにならねばならないと考える。そのためには、相手方の歴史、政治、経済、

いつて良好で健全な状態にあり、中国の对外文化交流の中で一位を占めている。

一衣帶水の両国が歴史上二〇〇〇年の長きにわたる交流を続けてきたこともさることながら、両国の人々の強い願望をバックに国交正常化後における両国政府の重視と推進に負うところが大きいことは言うまでもない。

中日両国は、社会体制も文化的背景も違い、人々の考え方、心理状態、価値観にも差があることは周知のとおりである。だからこそ、今まで以上に心の通い合った文化交流や学術交流を発展させ、相互理解を深めて本当に自他を知るようにならねばならないと考える。そのためには、相手方の歴史、政治、経済、

## 論文◆1

# 中日文化交流の推進を

中華人民共和国  
中国对外文化  
和国文化部元副部長  
交流协会常務副会长



劉德有

「比較」研究と鑑賞に供する交流をもつともつと試みてよいのではなかろうか。

ここ数年来、京劇、昆劇、話劇、オペラ、ミュージカル、舞踊（日本舞踊とバレエを含む）など様々な分野で、共同公演や翻案もしくは翻訳公演、スタッフの人才培养などの同事業を通じて、すでに多くの経験が蓄積されている。

最近の例では、一九九七年北京と東京で公演が行われた花柳千代先生と花柳寿樂先生による舞踊劇「大敦煌」があり、これは日本舞踊と京劇による合作公演として注目を集め、大きな成功を収めた。数年前、中国京劇院と市川猿之助の一座が共同して作品づくりに取り組み、同じ舞台の公演にこぎつけたのが、大型神話劇「竜王」であり、両国を代表する二つの古典演劇が相い寄つて、作品づくりから始めて一つの舞台にまとめあげた試みは、まさに両国の演劇交流が上辺だけでなく内容

を深く掘り下げる絶好の例証となつたと私は見ていて。

日本の歴史劇を京劇やその他の伝統演劇の舞台に移して成功した例もあるが、早くには一九八八年、武漢漢劇院の青年実験団が近松門左衛門の「曾根崎心中」を演劇化して成功を収め、一九九二年の初め、青山青果の「坂本竜馬」が京劇化された。これは中国京劇上はじめての試みであり、日本の歴史物語と京劇の芸術形式が見事に結合したというなどまらず、京劇という総合芸術の特色をよく表したものと言えよう。都民劇場創立五十周年の記念行事として、上海昆劇院が木下順二氏の民話劇「夕鶴」の昆劇化を行つたが、これも実り多い試みとして、大変喜ばしい。

また、ミュージカルの面でも新しい合作の方式が生まれている。劇団四季はここ数年、中央戲劇学院と中国児童芸術劇院に協力してミュージカル俳優と振り付け師の養成を手がけてきたが、こうして生み出された俳優と振り付け師は今、中国の舞台で活躍しており、最近北京で長期公演に成功した中国人による「美女と野獣」はその集大成であると言えよう。

近年、中国の民族音楽や邦楽、シンフォニー・オーケストラの相互訪問公演など、音楽交流の面でも活況を呈しているが、昨年一〇月に実現した宝塚歌劇団の中国公演に特に触れ

ておきたい。

また、中国が新世紀に向けて行う西部大開発によって、歴史的文化遺跡の発掘や考古学の発展に得がたいチャンスが提供されるにちがいない。文化遺跡の保護などの面で相互協力ができればと思う。

現在、中日友好事業は前人の手から未來へと引き継がれる重要な時期にある。演劇交流も世代交代のキーポイントにさしかかっており、後継者養成に意を用い、この緊要な仕事にもつと多くの力をさかなければならない。

また、そうした観点から、青少年の演劇交流に力点を置き、新しい道を開くことが急務となつていて。日本のいくつかの団体が中国各地の京劇団を招き、京劇を見たことのない日本の小中学生を対象に公演を続けており、また、人形劇などを通じて、子どもたちの間には今後とも継続されることが望まれる。

文化交流にあたつては、相互に相手方の国情を尊重し、「異を残して同を求める、平等互恵、相互尊重」の原則と精神を貫くことが必要であろう。ここでいう「同」つまり共通点とは、ほかでもなく、中日友好と相互理解の増進、相互学習と協力合作の強化、および平和擁護をめざす共同発展であろうかと思うが、ご賛同いただければ幸いである。



つた摩擦を少しでも避けるためには、おそらくそれらの国において、相手国の言語に関する教育を深めていくのが、非常に大切なことだとと思われる。

中国における日本語教育は、中日国交回復と中国的改革開放政策の実施とともに、七〇年代末から八〇年代初期にかけての日本語ブームと日本留学熱にあおられて、急激に盛ん

## 日中文化交流◆2 日本語教育の視点から

北京外国语大学教授  
徐 一平

世界のグローバリゼーションが進むにつれて、人々が外国人と交流する機会はますます増加する傾向にある。国家間の交渉をはじめ、ビジネス、留学、旅行など様々な場面で、地理的、歴史的、民族的背景の異なる人々同士が接するとき、言葉が不自由なため、思わず誤解やすれ違いなどの文化摩擦が起こるケースは決して少なくはない。こうい

大型掘立柱建物跡が発見され、それを契機に遺跡は永久保存、整備、活用されることになった。その後も範囲確認調査を続け、平成九年三月には国史跡となつた。

保存決定後、今後の本格的な整備計画策定のために検討委員会を設置し、直ちに平成六

になり、一時学習者数が一〇〇万人近くにも達したのをピークに、ここ数年来、少しづつ安定してきたようだと言われている。現在中国における日本語の学習人口は、二三万八、〇〇〇人で、五年ほど前とほぼ変わっていな

いようである。その中で、学習者は、大学で専攻として勉強しているものは約八、〇〇〇人で、非専攻として勉強しているものは約七万人で、中学校で勉強しているものは約一六万人だという。日本語教師の構成を見れば、八〇年代前半では、その大半が国内の大卒出身者、あるいは新中国以前の留日体験者、もしくはそれまでに何らかのかたちで日本語関係の仕事を携わっていた人が転向して日本語教師になつたのに対し、今は修士課程や博士課程卒業、または最近日本留学から戻つてきた人が日増しに増えつつある。もちろん、全国的に見た場合、やはり北京や上海のようないまの日本語教育は、昔から実用能力重視で、学生に対しては「聞く・話す・読む・書く・訳す」という五つの能力のレベルアップを要求している。そのような教育を受けた学生の実力は、時々日本人を驚かせるほど高いレベルに達し、それだけ、中国の日本語教育が成功しているとも考えられよう。しかし、中国の日本語教育は、昔から実用能力重視で、独立して存在しているものではない。言語の背後に存在している異文化に対する理解の如何は、その言語の最終的な教育結果にも影響しているのだとと思われる。多くの事実が物語っているように、日本語の文章をすらすらと読めたからといって、あるいはペラペラと日本語を話せたからといって、すぐさま日本文化という異文化も十分理解しているといふことを意味しないだろう。そのような視点から見た中国の日本語教育は、また多くの未解決な問題を抱えていると言わざるを得ない。

今後の日本語教育は、そういう異文化理解を視野に入れた、また広い意味での日本学との連携を考えた日本語教育にしていかなければならぬと思う。

## 日中文化交流◆1 文化財保護と

### 日中文化交流

青森県教育庁文化課三内丸山遺跡対策室  
文化財保護主幹

岡田 康博

二、内丸山遺跡をはじめとして、従来の縄文時代前中期にかけて繁栄した円筒土器文化の拠点的集落跡の実態を明らかにした。平成六年には直径一mを超える木柱を使つた

基本構想の中では、世界的視野からの縄文の見直しを掲げた。それに基づき、平成八年から三内丸山遺跡対策室では国内外の縄文関連遺跡の調査を開始した。これは将来に向けての姉妹友好遺跡、博物館協定の締結、共同研究の推進を視野に入れたものである。文化の見直しを始めた。それに基づき、平成八年度は中華人民共和国東北部、平成九年度はロシア沿海州とサハリン州と現地踏査、関連資料や情報の収集、関係機関への訪問など具体的な事業を進めてきた。

また、毎年地元新聞社と共に縄文文化に関するシンポジウムを開催し、東アジアの視点からの縄文文化の位置づけをテーマとした所より研究者を招いて、参加いただいた。その際にも実際に発掘調査現場、遺跡の整備状況や活用事業、情報公開と発信の方法などをつぶさに見ていただき、学術研究だけではなく日本で行われている文化財保護行政の状況をよく知り、理解していただくことを心がけた。個人レベルでも情報交換を定期的に続け、相互の信頼関係を構築してきた。

そのような中で、平成一〇年度に考古研究所から発掘調査を中心とした共同研究の提案

がなされた。それは一つの遺跡に対して自然

科学的分析はもちろん建築学や民族学からのアプローチなど学際的、総合的な発掘調査の基本的なモデルを構築したいとのことであつた。さらに学術研究のみならず、発掘調査後の遺跡の保存や管理、整備、公開、普及教育、情報発信など多岐にわたつた。これらは今後中国国内において、急務の課題として取り組まなければならぬものと思われた。埋蔵文化財である遺跡を国民共有の文化遺産としてどう保護し、活かしていくのかという、現在私たちが直面している課題そのものである。

これまで学術交流は一九八〇年代以降活発に行われるようになり、共同発掘も奈良国立文化財研究所などが先駆的に取り組んできた。これらを通じて日本での文化財保護の実際の姿が理解され、評価が高まっている中で、互いの抱える課題を共通認識し、長所を生かしながら交流を進めることが重要と考えられる。



りまとめ、現在は基本設計、実施設計の検討を進めている。

基本構想の中では、世界的視野からの縄文の見直しを掲げた。それに基づき、平成八年から三内丸山遺跡対策室では国内外の縄文関連遺跡の調査を開始した。これは将来に向けての姉妹友好遺跡、博物館協定の締結、共同研究の推進を視野に入れたものである。文化の見直しを始めた。それに基づき、平成八年度は中華人民共和国東北部、平成九年度はロシア沿海州とサハリン州と現地踏査、関連資料や情報の収集、関係機関への訪問など具体的な事業を進めてきた。

また、毎年地元新聞社と共に縄文文化に関するシンポジウムを開催し、東アジアの視点からの縄文文化の位置づけをテーマとした所より研究者を招いて、参加いただいた。その際にも実際に発掘調査現場、遺跡の整備状況や活用事業、情報公開と発信の方法などをつぶさに見ていただき、学術研究だけではなく日本で行われている文化財保護行政の状況をよく知り、理解していただくことを心がけた。個人レベルでも情報交換を定期的に続け、相互の信頼関係を構築してきた。

そのような中で、平成一〇年度に考古研究所から発掘調査を中心とした共同研究の提案

がなされた。それは一つの遺跡に対して自然

科学的分析はもちろん建築学や民族学からのアプローチなど学際的、総合的な発掘調査の基本的なモデルを構築したいとのことであつた。さらに学術研究のみならず、発掘調査後の遺跡の保存や管理、整備、公開、普及教育、情報発信など多岐にわたつた。これらは今後中国国内において、急務の課題として取り組まなければならぬものと思われた。埋蔵文化財である遺跡を国民共有の文化遺産としてどう保護し、活かしていくのかという、現在私たちが直面している課題そのものである。

これまで学術交流は一九八〇年代以降活発に行われるようになり、共同発掘も奈良国立文化財研究所などが先駆的に取り組んできた。これらを通じて日本での文化財保護の実際の姿が理解され、評価が高まっている中で、互いの抱える課題を共通認識し、長所を生かしながら交流を進めすることが重要と考えられる。

し、伝統文化の再現を図つて、一九七四年に開設された施設である。三〇万坪余という広い敷地に復元された各地の民家二六〇余棟を中心して、両班（李朝時代の高級官僚）の邸宅や官衙（役所）・寺院・工房などが配されている。これらの家々では人々が実際に働いてお

## 日韓文化交流◆2

# 文化財保護と文化交流

茨城大学・創価大学名誉教授

竹田 旦

韓国には、民俗村・民俗マウル（マウルは韓国語で村の意）という野外展示施設が各所にある。一番有名なのが、ソウル市から南方へ電車やバスで約二時間、京畿道龍仁市の山裾に広がる「韓国民俗村」である。これは失われていく民俗文化財を収集・展示

り、たとえば鍛冶屋では鍛冶師が、飴屋では飴作りが、機屋では織り子が忙しげに動き廻っている。広場では、農業や綱渡りなどの芸能、旧式の婚礼風景なども毎日実演されている。日本にも同種の施設が各地に認められるが、いずれも内容・規模ともはるかに及ばない。

いつたいに日韓両国では、民俗文化財の保護に関して類似と差異が交錯している。その中で気づいた点を指摘してみれば、次のようである。

(1) 日本では、民俗文化財を有形文化財・無形文化財・記念物・伝統的建造物群などに並べて独立の種目に立てている。すなわち、(1)衣食住・生業・信仰・年中行事等に関する風俗習慣、(2)民俗芸能及びこれらに用いられる衣服・器具・家屋その他の物件で、日本国民の生活の推移の理解のためににくことのできないものを民俗文化財と規定している。これらうち、特に重要なものを国や自治体で重要有形民俗文化財・重要無形民俗文化財に指定し（二〇〇〇年四月現在、国指定は計三八八件）、それぞれ保護を図っている。

(2) 韓国では、民俗文化財という種目を立てず、無形文化財に包含し、(1)芸能（音楽・舞踊・演劇・ノリ（民俗芸能）・儀式・武芸）と(2)技術（工芸技術・飲食製造）に区分している。そして歴史上・学術上・芸術上価値が高い

劇場がこの李恩順さんを主役に、また演出家を韓国から呼んで「スザンナの秘密」（ヴォルフ・フェラーリ作曲）の公演を実現させた。これがおそらく本格的な協力公演の最初ではないかと思う。同団体は、翌平成三年、今度は中村栄（日本）台本、李瀬國（韓国）作曲によるオペラ「人は知らずおたじュリア」の殉教」を制作、公演。さらに、この作品は、翌年李恩順さんを主役に再演して評価を高め、ついで同団体はソウルに赴き韓国のオペラと合同公演を行うなど、その交流の実を挙げていった。このような活動に連動したものと思われるが、その後平成九年には、二期会と韓国国立オペラ団とが共にトップの歌手たちを出し合って混成のキャスティングをした「リゴレット」（ヴェルディ作曲）公演をソウルと東京で行い、翌一〇年には韓国の名テナー・李炫氏が日本オペレッタ協会の「微笑の国」（レハール作曲）のスター・ホン役を日本語で歌い、さらに本年三月には、藤原歌劇団公演「椿姫」（ヴェルディ作曲）と二

## 日韓文化交流◆1

# オペラ活動における芸術文化交流

武蔵野音楽大学教授

池田 温

近年、我が国には新国立劇場、韓国には芸術の殿堂オペラハウスというオペラ専用の劇場がオープンされ、共に優れた舞台が展開されている。そこで本稿では、その「オペラ」のジャンルについて両国の交流の現状をみてみることにした。

まず古くは、戦後昭和二三年、韓国の有名な物語「春香伝」を題材に高木東六氏が作曲

が実現するのは、平成になつてからである。それは、文化庁海外芸術家招聘研修事業での研修員に選ばれ、東京芸術大学院と二期会オペラスタジオで研修をした李恩順（ソウル）さんがきっかけではないだろうか。平成二年、幸い民間でも積極的に日韓のオペラ公演を支援してくださる方があり、東京室内歌劇場がこの李恩順さんを主役に、また演出家を韓国から呼んで「スザンナの秘密」（ヴォルフ・フェラーリ作曲）の公演を実現させた。

これがおそらく本格的な協力公演の最初ではないかと思う。同団体は、翌平成三年、今度は中村栄（日本）台本、李瀬國（韓国）作曲によるオペラ「人は知らずおたじュリア」の殉教」を制作、公演。さらに、この作品は、翌年李恩順さんを主役に再演して評価を高め、ついで同団体はソウルに赴き韓国のオペラと合同公演を行うなど、その交流の実を挙げていった。このような活動に連動したものと思われるが、その後平成九年には、二期会と韓国国立オペラ団とが共にトップの歌手たちを出し合って混成のキャスティングをした「リゴレット」（ヴェルディ作曲）公演をソウルと東京で行い、翌一〇年には韓国の名テナー・李炫氏が日本オペレッタ協会の「微笑の国」（レハール作曲）のスター・ホン役を日本語で歌い、さらに本年三月には、藤原歌劇団公演「椿姫」（ヴェルディ作曲）と二

現在では、このように日韓のオペラにおける交流は、互いにスタッフ、キャストの一人として加わるオペラ創りにまで進んできた。韓国では、曹秀美（日本ではスミ・ヨー）で知られる歌手をはじめ、若手では昨年静岡の国際オペラコンクールで入賞したバリトンの韓民元などオペラ歌手の活躍がめざましい。さらに来春合併する新星日響と東フィルとの新オーケストラのアドバイザーには、世界的に活躍している韓国出身の指揮者鄭明勲氏が就任することになったという。朝報もたらされた。きっと同氏の指揮する日韓歌手によるオペラを観られる日もそう遠くはない。民族的にも、地理的にも、そして洋楽を移入しオペラ活動をしている歴史も最も近い国韓国とは、今後一層の交流の進展が図られ、互いの国でさらなるすばらしいオペラの舞台が展開されることになることを期待しているところである。

## 一、日中間の文化交流関連事業

日韓の間で様々なレベルの文化交流を推進することが合意されている。また、昨年の日中文化友好年記念事業の開催、二〇〇二年のワールドカップサッカー大会の同時開催など、交流の気運はかつてない盛り上がりを見せているところである。我が国としてもこれを中國及び韓国との文化交流を一層推進していくにあたっての契機ととらえているところであり、文化庁においては、日中、日韓文化交流の推進事業として以下ののような事業を展開しているところである。

玉 隅化の進展に伴い  
国際的な文化交流  
がますます重要なものとなつてきて  
いるが、その中でも中国及び韓国は、地理的、  
歴史的、文化的に関係が深いことから、これ  
らの国々との文化交流を推進することは、我  
が国の文化の今後の発展にとって極めて重要  
である。

近半年の日中、日韓の首脳会談においても、

## 文化庁の日中、日韓

## 解說

總務課文化政策室

60

- 平成二年度は、岩手県立盛岡第二高等学校生二四人を中国音楽院附属中学校に、山形県の高校生一五人を哈爾濱市師範学校に、新潟県立羽茂高等学校赤羽分校生四五人を哈爾濱第一中学校に派遣するとともに、哈爾濱市師範学校生二〇人を招へいし、交流を行つた。

(2) 中国芸術家招へい研修

(平成二年度) (二二〇万円)

中国の若手芸術家を招へいし、我が国における研修や我が国との若手芸術家との交流の機会を提供する。

平成二年度は、何燦波(カサンバ)、劉爾明(リョウエルミン)、建築設計、チケンショク、陳建國(バレエ)、楊琳(ヨウリン)、(日本映画研究)、汪曉志(日本映画研究)の五名を招へいした。

(5) 博物館等海外交流古美術展

(平成五年度) (二、八〇〇万円)

我が国の国立博物館(東京・京都・奈良)と諸外国の博物館・美術館との間で、相互に各々が所有する日本古美術・東洋美術を中心とする交流展を開催する。

平成二年度は、香港芸術館の所蔵品を東京国立博物館で展示・公開した。平成二年度は、東京国立博物館の所蔵品を香港芸術館で展示・公開する。

(6) 敷煌文化財保存修復に関する研究協力

化財を含む日本古美術展を開催する。

平成二年度は、上海博物館において「日本文物精華展」を平成二三年一月二〇日から三月二〇日まで開催する。

日韓文化交流◆3

# ふれあいの 日本語教育を めざして

韓国・同德女子大学教  
韓国日本学会会

李德卷

# 日韓文化交流◆3

## ふれあいの 日本語教育を めざして

韓国・同德女子大学教授  
韓国日本学会会長  
李 德 奉

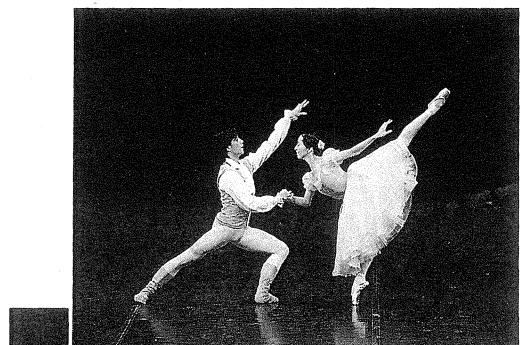
学習指導要領には、教育内容の項目に「文化学習の項目が新しく加わっている。日本語教育の目標にも、「日本人の行動様式を理解し、日本との国際交流に能動的に参加する態度を養う」というくだりがある。従来の情報収集や就職の道具としての日本語学習にとどまらず、日本との積極的な交流のための日本語学習をめざしているわけである。このような「ふれあいの日本語教育」方針は、いたるところに表れている。例えば、九七年から毎年行われている全国国公立中等学校の日本語教員採用試験にも、日本文化関連の問題が一五%前後出題され、文化の理解を要求している。また、今年の大学修学能力試験に新しく加わった第二外国語の日本語科の問題にも日本文化に関する問題が一〇%近く割り当てられている。さらに、来年から中学の日本語教育で用いられるはずの国定教科書にも、文化を取り入れた日本語学習ができるよう編成しているなど、文化理解を重んじた日本語教育の実行は、すでに本格化していると言える。

の教育より、文学や文化までを入れ混せての総合的日本語教育をめざしてのテーマなのである。前述の国定中学日本語教科書は、文化を取り入れた日本語学習という考え方に基づく。このようないくつかの活動を通じて日本語の学習ができるよう學習内容が組まれている。このようないくつかの活動を通じて日本語学習を進めていく上で妨げになるのは、文化に関する情報の乏しさや、著作権の壁である。したがって、このようないくつかの活動を通じて日本語学習を活性化するためには、文化情報提供のためのデータベース構築が必要である。また、交流による体験学習の機会を増やすために、インターネットによる交流網の構築をはじめ、画像会議やチャットの機会を増やすことなどが望まれる。

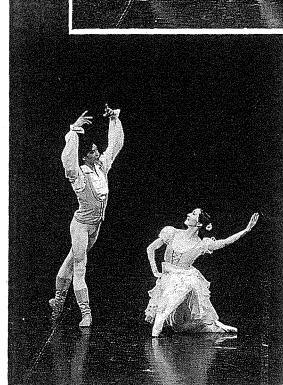
ただし、交流教育を成功させるためには片思いのよくな一方通行式教育になつてはいけないと思う。というのは、国際関係における理解とは、相互理解を前提とするものでなければならぬからである。したがって、これらの外國語教育は、相互理解のための相互教育といった考え方に基づいて行うべきであろう。とりわけ、地域内の交流および教育においては、経済的市場拡散の論理より、地域内の共生の論理に基づいた教育および文化交流であつてほしい。

財 団法人スター・ダンサーズ・バレエ団が、平成一年度海外芸術家招聘研修員受入事業による研修生を受け入れた経緯と概要を説明します。

### はじめに



'99スター・ダンサーズ・バレエ団  
11月公演  
ピーター・ライト版  
「ジゼル」より  
第1幕 バ・ド・シス  
須永リエ／陳建国  
©A.I Co.,Ltd.



(脚)スター・ダンサーズ・バレエ団  
常務理事

太刀川瑠璃子

## 中国芸術家招聘研修 財スター・ダンサーズ・バレエ団

### 事例紹介◆1

平成三年度より五ヶ年計画で第一期、平成八年度より三ヶ年計画で第二期を実施しておられ、平成一年度より三ヶ年計画で第三期を実施している。第三期の研究計画としては、(1)環境測定・窟内の温度と湿度等の測定を教煌側が担当、(2)修復に関する研究・①コンピュータによる損傷・修復記録システムを開発、五三窟壁画を対象に簡易図面を作る、②修復材料などの選定実験を東京で行う、③測色と顔料分析データを取り込んだコンピュータ上での変色部分の復元壁画図面の作成、(3)日中修復用語集の改訂等を実施予定。

(7) アジアにおける古代都城遺跡の研究と保存に関する研究協力 (平成八年度) (五、〇〇〇万円) 日本古代都城の源流を明らかにするために、中国古代都城(漢魏洛陽城・河南省洛陽市、襄陽城・南城・河北省臨華県、隋唐長安城・陝西省西安市、漢長安城・陝西省西安市)について、中国社会科学院の協力を得て調査しようとするものである。調査に関しては、分布調査・地下探査・発掘調査等の考古学的な調査法を駆使し、遺跡の性格を正しく把握し、保存設備に対する基本構想を作成すること

(1) 日韓高校生文化交流事業 (平成二年) (二、四〇〇万円) 全国高等学校総合文化祭で選ばれた優秀校を韓国に派遣し、また韓国から文化活動に関する優れた評価のある高等学校を全国高等学校総合文化祭に招へいして、文化活動の相互交流を図る。

(2) 韓国芸術家招へい研修 (平成二年) (一、一〇〇万円) 韓国の若手芸術家を招へいし、我が国における研修や我が国若手芸術家との交流の機会を提供する。

(3) 日韓文化交流展準備 (平成二年) (七〇〇万円) 日韓共同により開催される「二〇〇一年サ

当を目的としている。また、調査内容を充実するために、中国社会科学院からも担当研究者を招へいし、日本古代都城遺跡研究の現状の認識と、発掘調査技術などの交流・調整を実施する。その後の調査の進め方について綿密な検討を行った。平成九年度からは、漢長安城桂宮の発掘調査を中国社会科学院と共同で開始し、平成一年度も引き続き実施した。

### 二、日韓間の文化交流関連事業

(1) 日韓高校生文化交流事業 (平成二年) (二、四〇〇万円) 全国高等学校総合文化祭で選ばれた優秀校を韓国に派遣し、また韓国から文化活動に関する優れた評価のある高等学校を全国高等学校総合文化祭に招へいして、文化活動の相互交流を図る。

(4) 東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力 (平成二年) (再掲) 奈良県「飛鳥池遺跡」の発掘調査で注目を集めた七世紀代を中心とする鋳造関連の遺跡について、特にガラス製品と銅製品の生産を中心、日韓両国の技術と文化の交流を解明する目的で、韓国国立文化財研究所と共同研究を行う。

(5) 文化財における環境汚染の影響と修復技術の研究協力 (平成七年) (六、一〇〇万円) 大韓民国国立文化財研究所とは「文化財における環境汚染の影響と修理技術の開発研究」のテーマで国際共同研究を行っている。環境汚染による文化財への影響の基礎的研究を行っていた第一期研究が昨年度で終了し、本年三月、第二期共同研究合意書に調印した。第二期研究は、本年度から五ヶ年計画で実施され、第一期研究の成果に基づいて、大きな保存上の研究課題である石造物の保存修復研究に関して双方でフィールドを設定し、より具体的な保存研究を行う。

平成一年当時北京中央バレエ団に在団していた千葉県出身のバレリーナ石野寛子女士

から、当バレエ団に日本で研修の機会があれば是非希望したいという団員があるので、その希望を実現することの可能性を打診してきました。

受入研修員の氏名は陳建国、一九七三年生まれの二五歳の青年で、北京中央バレエ団所属の舞踊手です。彼の略歴は一九八六年北京舞蹈学院入学、一九九三年同学院卒業。中央バレエ団に入団しましたが、舞踊学院在学中にはカナダや香港での公演にも参加し、国内のコンクールにも出場し優れた成績を収め、入団後もアメリカ、インドネシアでの外国公演に参加し、公演における役柄においても重要な配役に選任されました。

当バレエ団では当人がすでに相当の経験と識見を備えていることから、すでに培われた技量をさらに向上させ、より高い洗練された演技力の習熟に主眼をおいて研修を実施することとし、指導は当バレエ団バレエミストレ



第一期研究では、まず①酸性雨など環境汚染による被害の実態について両国間で共通認識を持つことから始め、②気象観測、環境汚染物質の測定項目および測定方法の検討、③測定データの取り扱いの検討、④酸性雨などの影響を調べるために使用する暴露試験試料の標準化などの研究が行われた。

文化財被害の実態について、我が国の石造文化財は砂岩や凝灰岩などで造られたものが多く、比較的酸性雨の影響を受けやすいと言われている石灰岩系の使用例が少ない。しかし韓国では大理石の石造文化財が多く見られ、ソウル市内にある圓學寺十層石塔（国宝第二号）、敬天寺十層石塔（国宝第八十六号）などにその被害が認められる。それらの石塔に見られる黒色汚れを日本でX線回折分析した結果、硫酸カルシウム（石膏）が確認された。これは酸性雨などで溶かされた炭酸カルシウムが硫酸カルシウムと反応して生成され、その過程で煤煙などの浮遊汚染物質を取り込みながら石材表面で結晶化し、黒い石膏の皮殻になったことが証明され、ケルン大聖堂（ドイツ）と同じような劣化過程を経ていることが判明した。現在圓學寺石塔は覆屋（写真1）の中に保存されている。また敬天寺石塔は修復中で、完成後ソウル市龍山に新築中の国立中

央博物館内に保存される予定である。黒色汚れに対しては、重要文化財ニコライ堂（東京）の修復時に実験が行われ成果をあげたレーザクリーニングを試みる予定になっている。金

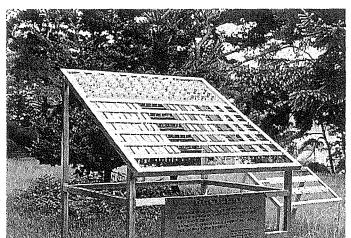
属文化財では、清州市内にある龍頭寺址鉄塔竿の修復には、国宝東大寺八角燈籠の修復に使用したのと同じカルナバワックスを主成分としたコーティング剤が用いられた。対象が鉄と銅との違いはあるが、今後の経年変化の比較材料になると考えられる。

気象観測や環境汚染物質の測定は、鎌倉大仏や東大寺で観測しているのと同様の項目で行うこととした。ただし日本では酸性雨中のイオン濃度や大気汚染ガスの測定を全自動システムで行っているが、韓国において同様の方法をとることは困難であるため、雨ごとにサンプリングしてイオンクロマトグラフィーを用いて分析を行っている。観測場所は、ソウル市景福宮にある国立文化財研究所屋上と交通量の激しいソウル市府舎前に位置する德寿宮内（写真2）に置かれている。そこには、屋外暴露試験台も設置され、金属や石材試料が暴露されている。金属暴露試料は、鉄、銅を主体としたものであり、銅は日本で特別に铸造された銅・錫・鉛合金が標準試料になつてている。石は、大理石、花崗岩、砂岩などが暴露されており、韓国側が標準試料を提供している。

大韓民国国立文化財研究所と東京国立文化財研究所の間の国際共同研究は、本年度から

「文化財環境と文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」として第一期共同研究の成果の上に第二期共同研究の新しい展開を求めて双方で研究フィールド（日本側は重要文化財白桦磨崖仏をフィールドとする予定）を提供しあうことになつてている。韓国側の提案を現在検討中であり、韓国側研究者の来日を待つて協議し最終決定を行う予定である。

近年、世界文化遺産が登録されたときに評価された価値を守るためにモニタリングの重要性が認識されはじめている。環境破壊は、文化財やそれを育んできた歴史的景観の保存状況を危うくする危険が大きい。この研究は、文化遺産モニタリングの意味からも重要な国際共同研究ということができる。将来的に条件が整えられれば中国を含めた研究の輪を広げていきたいと考えている。



（写真2）徳寿宮内の暴露試験

## ●長崎市南山手伝統的建造物群保存地区

(長崎県)

港町／平成3年4月30日選定

撮影／三沢博昭

長崎は安政五年（一八五八）の五箇国修好通商条約により設けられた開港場で、海岸沿いから山手にかけて一〇万ヘクタールの外国人居留地がつくりられた。居留地は海岸側から上等地、その背後の中等地、山手の下等地に分類され、外国人に貸し渡され、明治三〇年の制度廃止まで続いた。保存地区は、下等地である南山手町の南北七〇〇メートル、東西一〇〇メートルの範囲と海岸寄りの中等地と上等地の一部を含む約一七ヘクタールの範囲。南山手は主として住宅地として使用されていた区域で、石畳の坂道とともに多くの洋風建築が残る。北寄りに大浦天主堂・旧羅典神学校、その南には幕末から明治にかけて活躍した貿易商の住宅である旧クーパー邸・旧オルト邸、海岸寄りには旧香港上海銀行・旧長崎税関下り松派出所があり、いずれも重要文化財（大浦天主堂は国宝）に指定されている。幕末から明治時代の洋風建築の居留地の姿を良く伝えている。現在旧グランド・ハーバーのある一帯は市の「クーパー園」として公開されて長崎のシンボルとなつており、旧香港上海銀行・旧長崎税関下り松派出所やいつかの洋風住宅も公園化の上、一般公開されている。

(文化財保護部建造物課文化財調査官 島田敏男)

## 編集後記

歐米諸国が中心であり、中国および韓国との関係は地理的、歴史的、文化的な関係が深いためにかかわらず、十分な文化交流が行われてきています。これは、国際文化交流も一層盛んになってきています。今日は、国際文化交流の中でも近年特に重視されてきている、中国および韓国との文化交流にスポットを当てて特集を組んでみました。

二一世紀を目前に迎え、国際化のますますの進展に伴い、文化交流も一層盛んになつてきています。今日は、国際文化交流の中でも近年特に重視されてきている、中国および韓国との文化交流にスポットを当てて特集を組んでみました。

これまで国際文化交流といえば

皆様も今回この特集を読まれたこととききうかけとして、中国および韓国との文化交流に 관심を持つていただければ幸いです。

（？）

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、ご質問、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄や文化庁のウェブマスター宛へお寄せください。

《ホームページアドレス》  
<http://www.bunka.go.jp/>  
 《ウェブマスターメールアドレス》  
[webmaster@bunka.go.jp](mailto:webmaster@bunka.go.jp)

## 文化庁月報 7月号

(通巻382号)

平成12年7月25日印刷・発行

## 編集－文化庁

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-2

## 発行－株式会社ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03(3571)2126

販売 03(5349)6666

URL: <http://www.gyosei.co.jp>

## 印刷所－株式会社印刷所

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

株式会社ぎょうせい 営業部広告課

電話03(5349)6657 (ダイヤルイン)

©2000 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。